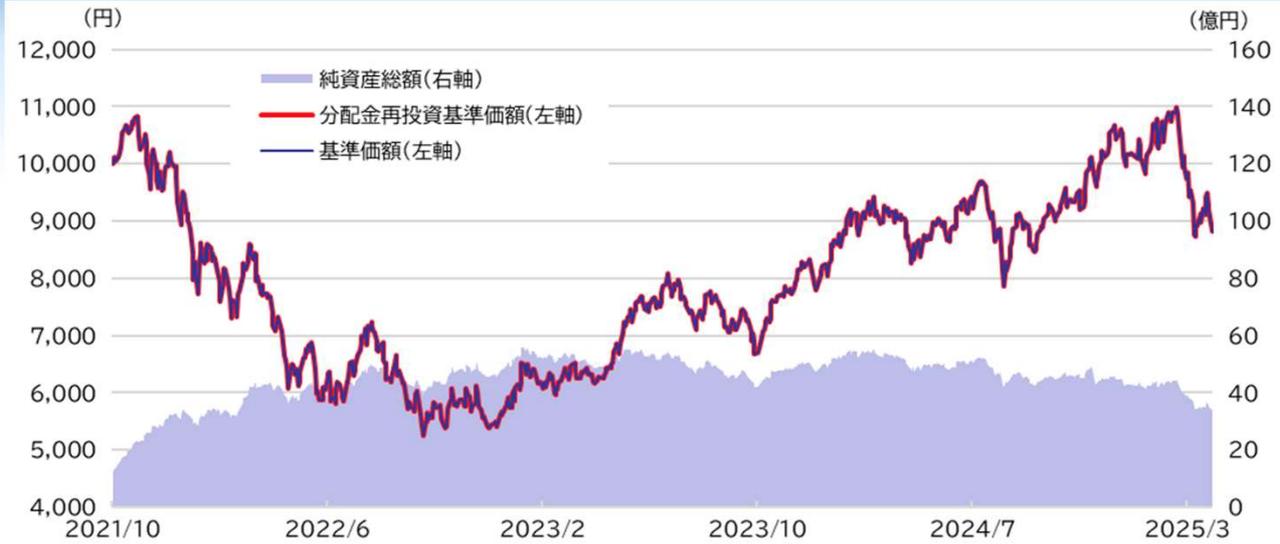


米国ネクストビジョンファンド (為替ヘッジあり) / (為替ヘッジなし)

追加型投信 / 海外 / 株式

ファンドの運用実績 — 為替ヘッジあり

設定来の基準価額の推移	基準価額 (1万口当たり)	純資産総額
	8,827円	33.8億円



騰落率

	1カ月前	3カ月前	6カ月前	1年前	3年前	設定来
分配金再投資基準価額	▲11.41%	▲13.29%	▲4.37%	▲3.58%	2.89%	▲11.73%
参考指数	▲4.66%	▲6.22%	▲2.09%	7.64%	26.99%	29.42%

最近5期の分配金の推移

2022/10/17	0円
2023/04/17	0円
2023/10/17	0円
2024/04/17	0円
2024/10/17	0円
設定来合計	0円

ポートフォリオ構成比率

JPモルガン・ファンズ-USテクノロジー・ファンド (1クラス)(円建て、円ヘッジ)	97.8%
マネー・リクイディティ・マザーファンド	0.3%
短期金融商品・その他	1.9%

■設定来の基準価額の推移

- 基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後です。当ファンドの実質的な信託報酬は、投資対象ファンドの信託報酬を間接的にご負担いただくこととなりますので、作成基準日現在、純資産総額に年率1.948%程度を乗じて得た額となります。
- 分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。
- グラフは過去の実績であり、将来の成果を示唆または保証するものではありません。

■騰落率

- 騰落率は、1カ月前、3カ月前、6カ月前、1年前、3年前の各月の月末および設定日との比較です。参考指数の騰落率は、当該日前営業日の現地終値を基に算出しております。
- 分配金再投資基準価額の設定来騰落率は、1万口当たりの当初設定元本との比較です。
- 参考指数は、S&P500トータルリターン指数(米ドル建て)です。
- 参考指数の騰落率は、Bloombergのデータを基にSBI岡三アセットマネジメントが算出しております。

■最近5期の分配金の推移

- 分配金は1万口当たり、税引前です。運用状況等によっては分配金額が変わる場合、或いは分配金が支払われない場合があります。

■ポートフォリオ構成比率

- 構成比率は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

ファンドの運用実績 — 為替ヘッジなし

設定来の基準価額の推移

基準価額 (1万口当たり)

13,566円

純資産総額

552.5億円



騰落率

	1カ月前	3カ月前	6カ月前	1年前	3年前	設定来
分配金再投資基準価額	▲10.98%	▲16.66%	2.80%	0.22%	48.12%	35.66%
参考指数	▲4.76%	▲11.36%	2.56%	6.30%	55.14%	70.16%

最近5期の分配金の推移

2022/10/17	0円
2023/04/17	0円
2023/10/17	0円
2024/04/17	0円
2024/10/17	0円
設定来合計	0円

ポートフォリオ構成比率

JPモルガン・ファンズ-USテクノロジー・ファンド (Iクラス)(円建て)	97.9%
マネー・リクイディティ・マザーファンド	0.2%
短期金融商品・その他	1.9%

■設定来の基準価額の推移

- 基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後です。当ファンドの実質的な信託報酬は、投資対象ファンドの信託報酬を間接的にご負担いただくこととなりますので、作成基準日現在、純資産総額に年率1.948%程度を乗じて得た額となります。
- 分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。
- グラフは過去の実績であり、将来の成果を示唆または保証するものではありません。

■騰落率

- 騰落率は、1カ月前、3カ月前、6カ月前、1年前、3年前の各月の月末および設定日との比較です。
- 分配金再投資基準価額の設定来騰落率は、1万口当たりの当初設定元本との比較です。
- 参考指数は、S&P500トータルリターン指数[円換算後]です。
- 参考指数は、当該日前営業日の現地終値に為替レート(対顧客電信売買相場の当日(東京)の仲値)を乗じて算出しております。
- 参考指数の騰落率は、Bloombergのデータを基にSBI岡三アセットマネジメントが算出しております。

■最近5期の分配金の推移

- 分配金は1万口当たり、税引前です。運用状況等によっては分配金額が変わる場合、或いは分配金が支払われない場合があります。

■ポートフォリオ構成比率

- 構成比率は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

JPモルガン・ファンズ – USテクノロジー・ファンドの状況(1)

組入上位10銘柄 (組入銘柄数 61)

銘柄名	業種	国・地域	比率	EPS推移(暦年) (単位:米ドル)	株価推移(直近1年、日次) (単位:米ドル)
1 メタ・プラットフォームズ	インターネット	アメリカ	5.1%		
<p>メタ・プラットフォームズ(Meta Platforms, Inc.)はソーシャルテクノロジー会社。ユーザーをつなぎ、コミュニティを見つけ、事業の成長を支援するアプリケーションおよび技術を構築する。広告、拡張機能化、仮想現実も手掛ける。</p>					
2 ネットフリックス	インターネット	アメリカ	4.8%		
<p>ネットフリックス(Netflix, Inc.)はインターネットメディア・サービス会社。加入者に向けてストリーミングサービスを配信。インターネット接続端末で各種テレビ番組、映画、アニメ、ドキュメンタリーを提供する。世界各地で事業を展開。</p>					
3 テイクツー・インタラクティブ・ソフトウェア	ソフトウェア	アメリカ	4.3%		
<p>テイクツー・インタラクティブ・ソフトウェア(Take-Two Interactive Software, Inc.)はビデオゲームメーカー。インタラクティブ・エンターテインメント・ソフトウェア・ゲームと周辺機器を製造する。コンソールシステム、ハンドヘルド型ゲームシステム、およびパソコン用製品を手掛ける。小売店、デジタルダウンロード、オンライン、クラウドストリーミングサービスを通じて製品を販売。</p>					
4 アリババグループ・ホールディング	インターネット	中国	3.7%		
<p>アリババグループ・ホールディング(Alibaba Group Holding Ltd)は持株会社。子会社を通じて、グローバル市場を介してインターネットインフラ、電子商取引、オンライン金融、小売り、インターネットコンテンツを提供するほか、デジタルメディア、娯楽、物流、クラウドコンピューティングソリューションを手掛ける。世界各地で事業を展開。</p>					
5 スノーflake	ソフトウェア	アメリカ	3.5%		
<p>スノーflake(Snowflake Inc.)はソフトウェア・ソリューション会社。データベースアーキテクチャ、データウェアハウス、クエリ最適化、並列化ソリューションを開発する。世界各地で事業を展開。</p>					

※EPS推移は、2025年以降は予測値です。

※比率は、「JPモルガン・ファンズ – USテクノロジー・ファンド」のポートフォリオに対する割合です。

※業種は、J.P.モルガン・アセット・マネジメント独自の分類です。

※J.P.モルガン・アセット・マネジメントのデータおよびBloombergデータを基にSBI岡三アセットマネジメントが作成しております。

JPモルガン・ファンズ – USテクノロジー・ファンドの状況(2)

組入上位10銘柄 (組入銘柄数 61)

銘柄名	業種	国・地域	比率	EPS推移(暦年) (単位:米ドル)	株価推移(直近1年、日次) (単位:米ドル)
6 アマゾン・ドット・コム	インターネット	アメリカ	3.3%		
アマゾン・ドット・コム(Amazon.com, Inc.)はオンライン小売会社。多岐にわたる製品を販売する。書籍、音楽、コンピューター、電子機器、その他多数の製品を販売。顧客別にカスタマイズされたショッピングサービス、ウェブ上でのクレジットカード決済、および顧客への直接配送を手掛ける。世界各地でクラウドプラットフォーム・サービスも提供。					
7 サービスナウ	ソフトウェア	アメリカ	3.3%		
サービスナウ(ServiceNow, Inc.)は企業向け情報技術(IT)管理ソフトウェアメーカー。企業運営のデジタルワークフロー管理を支援するクラウドコンピューティング・プラットフォームの設計、開発、販売を手掛ける。世界各地で事業を展開。					
8 インテュイット	ソフトウェア	アメリカ	2.9%		
インテュイット(Intuit Inc.)はソフトウェア・メーカー。中小企業、金融機関、消費者、会計士向けの業務・財務管理用ソフトウェア・ソリューションを開発、販売する。事業管理、給与計算、パーソナルファイナンス、税金申告ソフトウェアソリューションを提供する。世界各地で事業を展開。					
9 ショップファイ	ソフトウェア	カナダ	2.9%		
ショップファイ(Shopify Inc.)はクラウドベースの商取引プラットフォームを提供。販売業者のブランドを紹介するのに役立つ各種広告プラットフォームを手掛ける。カナダで事業を展開。					
10 オラクル	ソフトウェア	アメリカ	2.6%		
オラクル(Oracle Corporation)はソフトウェアメーカー。企業の情報管理用ソフトを手掛ける。製品はデータベースやリレーショナル・サーバー、アプリケーション開発および意思決定支援ツール、業務用アプリケーションなど。					

※EPS推移は、2025年以降は予測値です。
 ※比率は、「JPモルガン・ファンズ – USテクノロジー・ファンド」のポートフォリオに対する割合です。
 ※業種は、J.P.モルガン・アセット・マネジメント独自の分類です。
 ※J.P.モルガン・アセット・マネジメントのデータおよびBloombergデータを基にSBI岡三アセットマネジメントが作成しております。

JPモルガン・ファンズ – USテクノロジー・ファンドの状況(3)

組入上位10業種

	業種	比率
1	ソフトウェア	41.3%
2	インターネット	30.5%
3	半導体	15.7%
4	データ/通信	4.4%
5	ハードウェア	3.3%
6	ITサービス	3.0%
7	サービス・プロバイダー	1.8%
8	—	—
9	—	—
10	—	—

企業規模(株式時価総額)別構成比率

企業規模	比率
大型株 (500億米ドル超)	62.4%
中型株 (100億米ドル以上 – 500億米ドル以下)	26.3%
小型株 (100億米ドル未満)	10.2%

※時価総額の区分は、本資料独自のものです。また、将来変更される場合があります。

※比率は、「JPモルガン・ファンズ–USテクノロジー・ファンド」のポートフォリオに対する割合です。小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

※業種は、J.P.モルガン・アセット・マネジメント独自の分類です。

※J.P.モルガン・アセット・マネジメントのデータを基にSBI岡三アセットマネジメントが作成しております。

2025年3月 組入上位10銘柄の主なニュース

日付	銘柄	ニュース
3月6日	アリババ	アリババは3月6日、独自開発のAIモデル「QwQ-32B」を発表した。同モデルは、AIの判断精度を左右する「パラメータ数」が約320億と、DeepSeekのAIモデル「R1」(6,710億)に比べて大幅に少ない設計でありながら、高い性能を実現している点が注目されている。 アリババ公式サイトでの性能比較表によれば、数学やコーディング、一般的な問題解決能力において、DeepSeekやOpen AIなどの他社の主要モデルと同等かそれ以上の性能を発揮。軽量かつ高性能な点から、今後「QwQ-32B」の普及が期待される。
3月10日	オラクル	オラクルは2024年12月～2025年2月期の決算を発表し、売上高は前年同期比6%増の141億ドルとなった。市場予想はやや下回ったものの、同社は成長軌道にあるクラウドインフラ事業が次の2年間の年度で売上高を押し上げるとの予測を示した。 また、オラクルは2026年5月期に15%、2027年5月期に20%の売上高増を見込んでおり、いずれもアナリスト予想を上回る水準である。
3月25日	ショッピファイ	ショッピファイは3月18日に、ニューヨーク証券取引所(NYSE)から3月末にナスダック市場へ上場先を変更すると発表した。ナスダック100への組み入れ観測を受け、発表後から3月25日までの1週間で株価は約17%上昇した。同指数はインデックス連動型のETFや投資信託の主要な投資対象となっていることから、組み入れによる資金流入期待が株価上昇の一因とみられる。
3月25日	メタ・プラットフォームズ	メタ・プラットフォームズは、AIシステムのトレーニング用に自社で初めて設計・開発したチップの試験を開始した。まずは小規模なテスト導入から始め、結果が良好であれば、大規模な使用に向けて生産を拡大する計画とされる。 同社はAIインフラへの投資を加速させており、2025年の設備投資額は最大650億ドル(約9.7兆円)に達する見通し。これにはデータセンターの拡張やAI向けチップの調達が含まれており、自社製チップの導入が進めば、外部サプライヤーへの依存を軽減し、長期的なコスト削減につながると見込まれる。

※上記は、個別銘柄の推奨を目的として示したのではなく、当該銘柄の株価の上昇および投資先ファンドへの組入れを保証するものではありません。
また、組入銘柄すべてのニュースを網羅しているわけではありません。巻末の<ご注意>をご確認ください。

(出所)各種報道等

※市場環境等についての評価、分析等は、将来の運用成果を保証するものではありません。

ファンドマネージャーのコメント

※以下は、当ファンドが高位に組入れております「JPモルガン・ファンズーUSテクノロジー・ファンド」のファンドマネージャーコメントを基に作成しています。

<投資環境>

3月の米国株式市場は下落しました。上旬は、米国の関税政策に対する不透明感や、トランプ大統領がメディアのインタビューにおいて、米国の年内の景気後退入りを明確に否定しなかったことを受け、景気悪化に対する懸念の高まりから株価は下落しました。その後、同大統領が相互関税について柔軟に対応する考えを示唆したことから反発する場面があったものの、月末にかけては自動車向けの関税が発表されたことや、米コア個人消費支出(PCE)価格指数が市場予想を上回り、インフレ再燃への警戒感が高まったことなどから下落する展開となりました。

3月のドル/円相場は、米国の景気悪化懸念が強まる一方、日銀の利上げ観測が強まったことを受け、内外金利差の縮小とともに一時146円台を記録するなど下落(ドル安円高)して始まりました。中旬以降は、ドル/円が反発する局面も見られましたが、月末には米主要経済指標が悪化し、結局前月末とほぼ同水準で取引を終えました。

<運用経過>

3月は、ソフトウェアセクターやインターネットセクター、半導体セクターを中心とするポートフォリオを維持しつつ、銘柄の入替え等を行いました。セクター別では、一般消費財・サービスセクターにおける銘柄選択がプラス寄与となった一方、テクノロジーセクターにおける銘柄選択がマイナスに影響しました。個別銘柄では電子商取引(EC)企業などへの投資がプラスに寄与した一方で、ソフトウェア開発ツール企業などへの投資がマイナスに影響しました。

<今後の運用方針>

グローバル経済および企業活動を取り巻く長期的なイノベーションと変革の流れは後退しておらず、引き続き技術の進歩と、様々なセクターにおける普及に着目しています。ポートフォリオにおいては、これまで半導体関連銘柄の比率を高めとしてきましたが、景気循環による影響などから一部削減し、相対的に成長が期待される消費デジタルサービス関連の銘柄の投資比率を高めていく方針です。

米国においては、トランプ政権の関税政策や各国の対応などが市場の変動性を高めています。依然として米国のファンダメンタルズ(経済の基礎的条件)は堅調なものの、今後の見方については警戒感も出てきています。関税を巡る動向を背景に市場の変動性が高まる可能性もありますが、引き続き確信度の高い銘柄に焦点を当て、魅力的な投資機会の追求に努めます。

※今後の運用方針等は、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。
また、市場環境等についての評価、分析等は、将来の運用成果を保証するものではありません。

ファンドの特色(1)

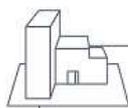
- 1 以下の投資信託証券への投資を通じて、主として米国のテクノロジー関連企業の株式に投資します。

米国ネクストビジョンファンド(為替ヘッジあり)

- JPモルガン・ファンズーUSテクノロジー・ファンド(Iクラス) (円建て、円ヘッジ)
実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。
<運用会社>J.P.モルガン・インベストメント・マネージメント・インク(米国法人)
- マネー・リクイディティ・マザーファンド

米国ネクストビジョンファンド(為替ヘッジなし)

- JPモルガン・ファンズーUSテクノロジー・ファンド(Iクラス) (円建て)
実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
<運用会社>J.P.モルガン・インベストメント・マネージメント・インク(米国法人)
- マネー・リクイディティ・マザーファンド

J.P.モルガン・インベストメント・マネージメント・インク(米国法人)
について

J.P.モルガン・インベストメント・マネージメント・インク(米国法人)は、J.P.モルガン・アセット・マネジメントの一員です。ニューヨークを拠点とし、世界各国・地域の運用技術や調査能力を活用し、資産運用を提供しています。

※J.P.モルガン・アセット・マネジメントは、JPモルガン・チェース・アンド・カンパニーおよび世界の関連会社の資産運用ビジネスのブランドです。

- 2 ポートフォリオの構築にあたっては、ファンダメンタルズ分析を用いたボトムアップリサーチに基づき銘柄を選定します。また、環境や社会要因についてプラスの特性を持ち、良好なガバナンスを行うと評価する企業に投資を行うために、独自のESGスコアリング手法や外部データを活用します。

- 3 JPモルガン・ファンズーUSテクノロジー・ファンド(Iクラス) (円建て、円ヘッジ) / (円建て) の組入比率は、高位に保つことを基本とします。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

ファンドの特色(2)

● 分配方針

年2回、4月および10月の各月の17日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき、収益分配を行います。

- 分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。繰越分を含めた配当等収益には、マザーファンドの配当等収益のうち、投資信託財産に帰属すべき配当等収益を含むものとします。
- 分配金額は、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案のうえ決定します。

※分配可能額が少額の場合や基準価額水準によっては、収益分配を行わないことがあります。

※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

投資リスク(1)

■ 基準価額の変動要因

投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益及び損失は、すべて投資者の皆さまに帰属します。

ファンドは、米国の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替相場の変動により損失を被ることがあります。

投資リスク(2)

● 主な変動要因

株価変動リスク

株式の価格は、発行会社の業績や財務状況、株式市場の需給、政治・経済状況等の影響により変動します。

為替変動リスク

<為替ヘッジあり>

外貨建資産は、為替相場の変動により円換算額が変動します。投資対象通貨に対する円高により、外貨建資産の円換算額は減少し、円安により、外貨建資産の円換算額は増加します。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を目指しますが、為替ヘッジの対象となる外貨建資産は市況動向により変動することから、為替変動リスクを完全にヘッジすることはできません。

<為替ヘッジなし>

外貨建資産は、為替相場の変動により円換算額が変動します。投資対象通貨に対する円高により、外貨建資産の円換算額は減少し、円安により、外貨建資産の円換算額は増加します。

信用リスク

有価証券等の発行体の破綻や財務状況の悪化、および有価証券等の発行体の財務状況に関する外部評価の変化等の影響により、投資した有価証券等の価格が大きく下落することや、投資資金が回収不能となることがあります。

● その他の変動要因

カントリーリスク

※基準価額の変動要因は上記のリスクに限定されるものではありません。

■ その他の留意点

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込の受付が中止となる可能性、換金代金の支払が遅延する可能性があります。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超過して支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位 ※詳しくは販売会社にご確認下さい。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
購入代金	販売会社の定める期日までにお支払い下さい。 ※詳しくは販売会社にご確認下さい。
換金単位	販売会社が定める単位 ※詳しくは販売会社にご確認下さい。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
換金代金	換金申込受付日から起算して、原則として7営業日目から販売会社を通じてお支払いします。
申込締切時間	原則として、購入・換金の申込みに係る、販売会社所定の事務手続きが午後3時30分までに完了したものを当日の申込受付分とします。なお、販売会社によっては対応が異なる場合がありますので、詳細は販売会社にご確認ください。
換金制限	ありません。
購入・換金 申込不可日	以下に該当する日は、購入・換金申込の受付を行いません。 ・ニューヨークの取引所の休業日 ・JPモルガン・ファンズーUSテクノロジー・ファンド(イクラス)(円建て、円ヘッジ) / (円建て)の管理会社が指定する日
購入・換金 申込受付の 中止及び取消し	投資対象とする投資信託証券にかかる購入・換金申込の受付の中止および取消、取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込の受付を中止することや、すでに受付けた購入・換金申込の受付を取消することがあります。
スイッチング (乗換え)	各ファンド間でのスイッチングが可能です。 ※スイッチングの取扱いは、販売会社によって異なります。詳しくは販売会社にご確認下さい。
信託期間	2045年10月16日まで(2021年10月25日設定) ただし、投資者に有利である場合等は、信託期間を延長することがあります。
繰上償還	各ファンド受益権口数が10億口を下回ることとなった場合、やむを得ない事情が発生した場合等には繰上償還となることがあります。
決算日	毎年4月17日および10月17日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年2回、収益分配方針に基づいて収益の分配を行います。 「分配金再投資コース」の場合、収益分配金は、税金を差し引いた後、決算日の基準価額で再投資します。
信託金の限度額	各ファンド5,000億円
公告	原則として、電子公告の方法により行い、次のアドレスに掲載します。 https://www.sbiokasan-am.co.jp
運用報告書	毎決算時および償還時に交付運用報告書を作成し、販売会社を通じて交付します。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用													
購入時手数料	<p>購入金額(購入価額×購入口数)に、販売会社が独自に定める購入時手数料率を乗じて得た額 購入時手数料率の上限は、3.3%(税抜3.0%)です。 購入時手数料率は変更となる場合があります。 各ファンド間でのスイッチング(乗換え)により、同一の販売会社でファンドを買付ける場合には、購入時手数料の一部または全部の割引を受けられる場合があります。 詳しくは販売会社にご確認下さい。</p> <p>ファンドの商品説明および販売事務手続き等の対価として販売会社に支払われます。</p>												
信託財産留保額	ありません。												
投資者が信託財産で間接的に負担する費用													
運用管理費用 (信託報酬)	<p>純資産総額×年率1.298%(税抜1.18%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>配分</th> <th>委託会社</th> <th>年率0.35%(税抜)</th> <th>委託した資金の運用の対価です。</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>販売会社</td> <td>年率0.80%(税抜)</td> <td>運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価です。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>受託会社</td> <td>年率0.03%(税抜)</td> <td>運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価です。</td> </tr> </tbody> </table>	配分	委託会社	年率0.35%(税抜)	委託した資金の運用の対価です。		販売会社	年率0.80%(税抜)	運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価です。		受託会社	年率0.03%(税抜)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価です。
	配分	委託会社	年率0.35%(税抜)	委託した資金の運用の対価です。									
		販売会社	年率0.80%(税抜)	運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価です。									
		受託会社	年率0.03%(税抜)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価です。									
投資対象とする投資信託証券	<p>JPモルガン・ファンズーUSテクノロジー・ファンド(クラス)(円建て、円ヘッジ) / (円建て) 純資産総額×年率0.65%</p>												
実質的な負担	<p>純資産総額×年率1.948%程度 実質的な負担とは、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬を含めた報酬です。なお、実質的な運用管理費用(信託報酬)は目安であり、投資信託証券の実際の組入比率により変動します。</p>												
その他費用・手数料	<p>監査費用:純資産総額×年率0.0132%(税抜0.012%)</p> <p>有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立替えた立替金の利息、借入金の利息等を投資信託財産でご負担いただきます。また、投資対象とする投資信託証券に係る前記の費用等、海外における資産の保管等に要する費用等を間接的にご負担いただきます。 ※運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。</p>												

※運用管理費用(信託報酬)、監査費用は日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期末または信託終了のときに投資信託財産から支払われます。その他費用・手数料(監査費用を除きます。)はその都度、投資信託財産から支払われます。

※ファンドに係る手数料等につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。

委託会社および関係法人の概況

委託会社	SBI 岡三アセットマネジメント株式会社 (ファンドの運用の指図を行います。)
	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第370号 加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会
受託会社	三井住友信託銀行株式会社 (ファンドの財産の保管及び管理を行います。)

販売会社について

受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。なお、販売会社には取次証券会社が含まれる場合があります。

商号	登録番号	日本証券業協会	加入協会		
			一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
(金融商品取引業者)					
岡三証券株式会社	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○
岡三にいがた証券株式会社	関東財務局長(金商)第169号	○			
阿波証券株式会社	四国財務局長(金商)第1号	○			
三縁証券株式会社	東海財務局長(金商)第22号	○			
株式会社証券ジャパン	関東財務局長(金商)第170号	○	○		
三晃証券株式会社	関東財務局長(金商)第72号	○			
野畑証券株式会社	東海財務局長(金商)第18号	○			○
武甲証券株式会社	関東財務局長(金商)第154号	○			

<ご注意>

- 本資料はSBI岡三アセットマネジメント株式会社が作成した販売用資料です。購入の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。投資信託説明書(交付目論見書)の交付場所につきましては「販売会社について」でご確認ください。
- 本資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。
- 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 本資料は当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

委託会社
お問合わせ先

電話番号
03-3516-1300(営業日の9:00~17:00)

ホームページ
<https://www.sbiokasan-am.co.jp>